

犬山市人口ビジョン

令和4年10月

犬山市

目 次

1. 人口の現状分析.....	1
(1) 国・県の人口動向.....	1
(2) 犬山市の人口動向.....	3
2. 将来人口推計.....	18
(1) 基本推計（社人研の推計に準拠）.....	18
(2) 人口シミュレーション.....	21
3. 人口の変化が地域の将来に与える影響.....	23
(1) 地域住民への影響.....	23
(2) 地域経済への影響.....	23
(3) 行財政運営への影響.....	23
4. 人口の将来展望.....	25
(1) 市民等の意識.....	25
(2) 目指すべき将来の方向.....	31
(3) 人口の将来展望.....	32

1. 人口の現状分析

(1) 国・県の人口動向

①国の人口動向

- ・わが国の人口は 2008 年をピークに減少を続けており、国立社会保障・人口問題研究所（以下「社人研」という。）の推計（平成 29 年推計（中位推計））によると、2030 年以降は 5 年ごとに 300 万人以上の人口が減少する見込みとなっています。
- ・2053 年には 1 億人を下回り（9,924 万人）、2065 年には 8,808 万人まで減少するものと推計されています。

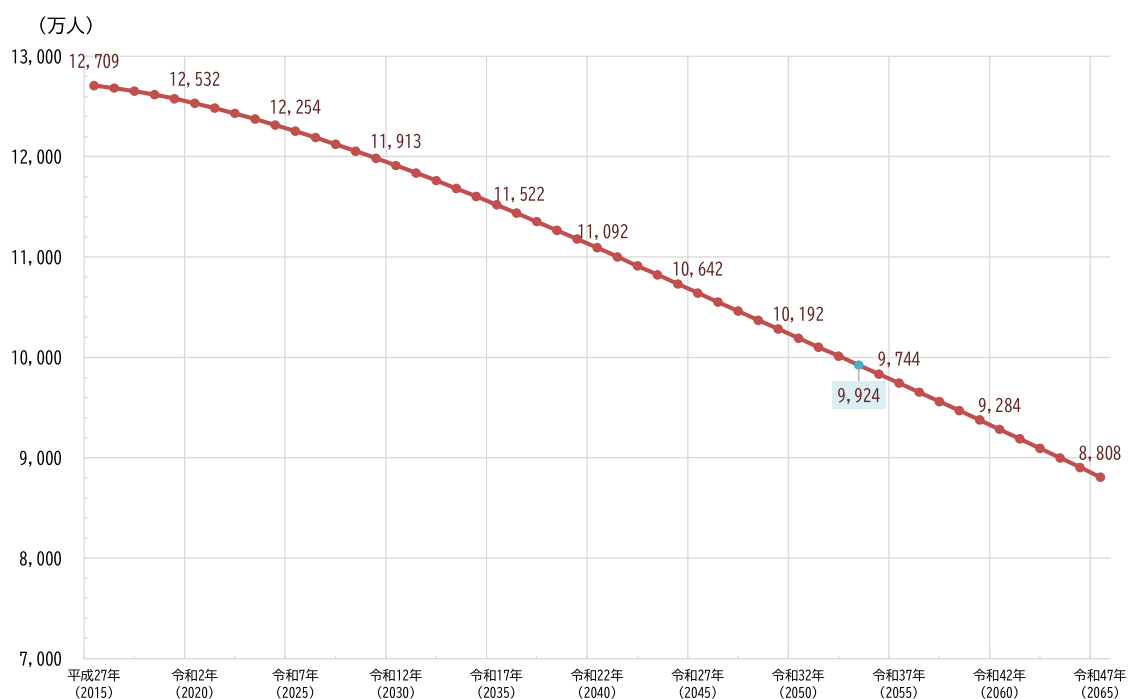


図1 日本の将来人口推計（中位推計）

資料：国立社会保障・人口問題研究所（平成 29 年（2017）推計）

②愛知県の人口動向

- ・「あいちの人口」によると、愛知県の人口は2019年まで増加を続けていましたが、2020年、2021年は減少しており、社人研の推計（平成29年推計（中位推計））では、今後も人口減少が続くとされています。
- ・出生数から死亡数を差し引いた自然増減数は、2017年に2,368人の減少と初めて減少に転じ、2018年には5,874人、2019年には10,025人と減少幅は拡大しています。
- ・これまで、転入数から転出数を差し引いた社会増減数は、良好な経済環境の中で、増加を続けており、自然減を社会増が補うかたちで人口増加を維持していましたが、近年は社会増減数も減少しています。

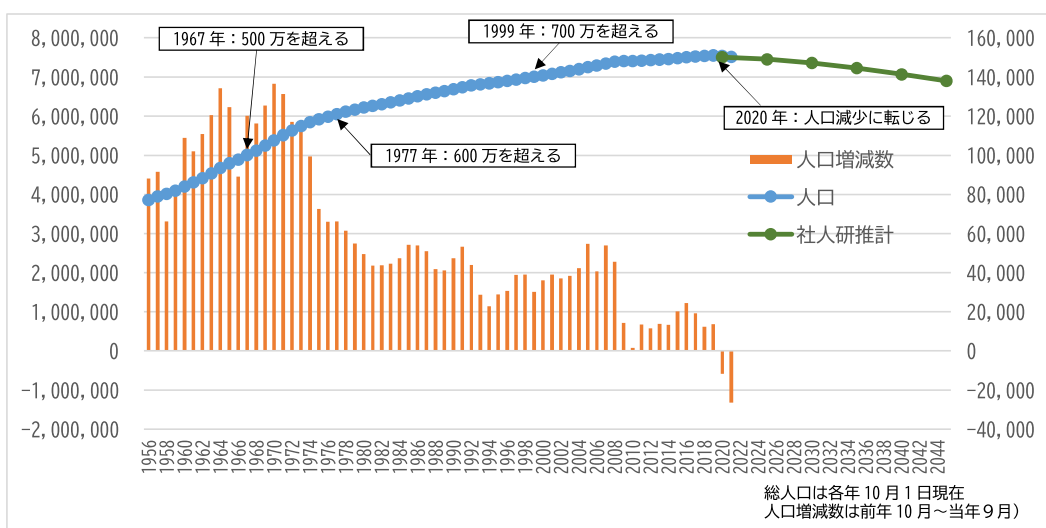


図2 総人口の推移（愛知県）

資料 あいちの人口（第1表 愛知県推計人口と世帯数の推移）
 国立社会保障・人口問題研究所（平成29年（2017）推計）

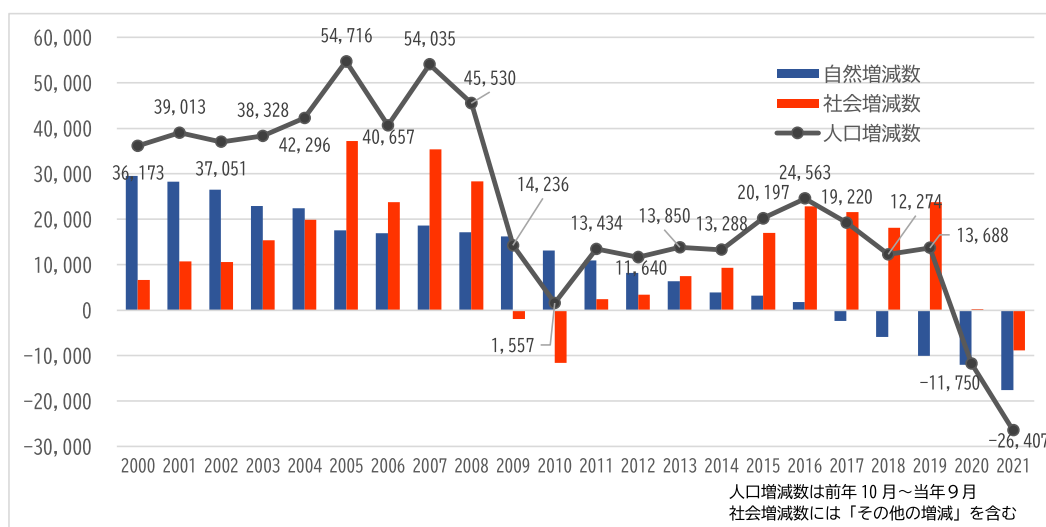


図3 人口増減数の推移（愛知県）

資料 あいちの人口（第1表 愛知県推計人口と世帯数の推移）

(2) 犬山市の人口動向

① 総人口の推移

- ・住民基本台帳によると、犬山市の人口は2009年をピークに減少局面に入っており、愛知県全体よりも早くから人口減少がはじまっています。

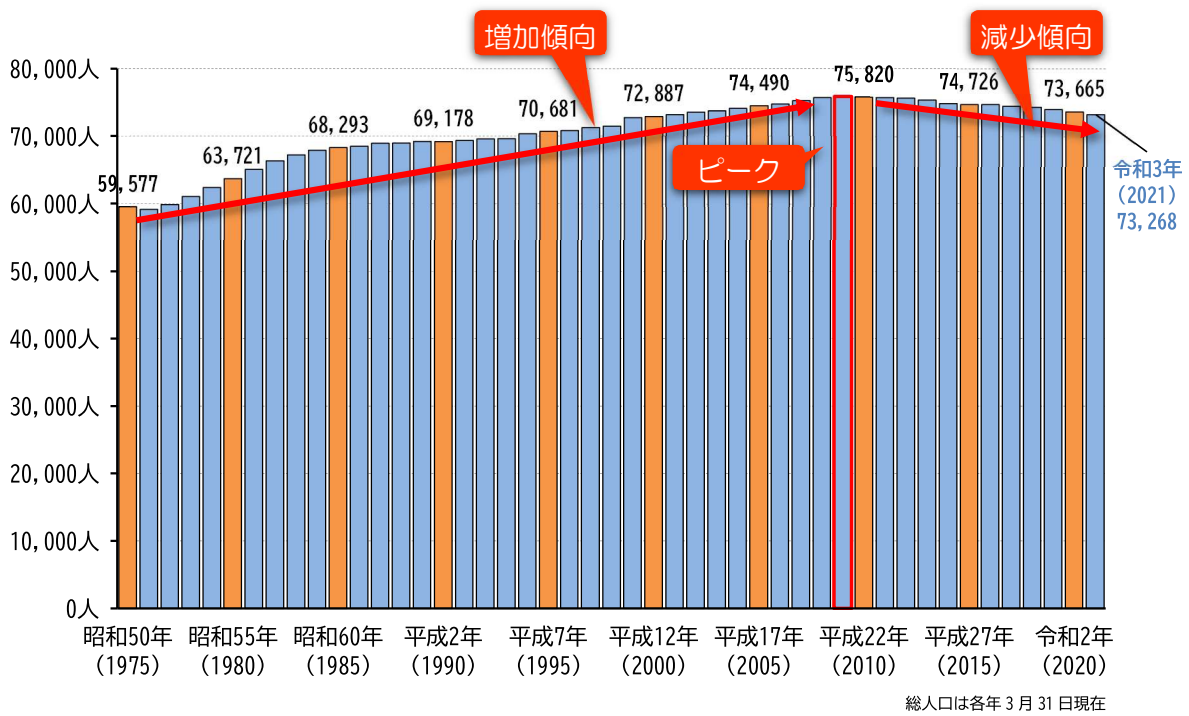


図4 総人口の推移 (犬山市)

資料：住民基本台帳

②年齢3区分別人口の推移

- ・年少人口割合の低下と老年人口割合の上昇が続いています。
- ・2000年以降、老年人口割合が年少人口割合を上回っています。
- ・生産年齢人口の割合は、1995年までは上昇していましたが、その後は低下が続いています。

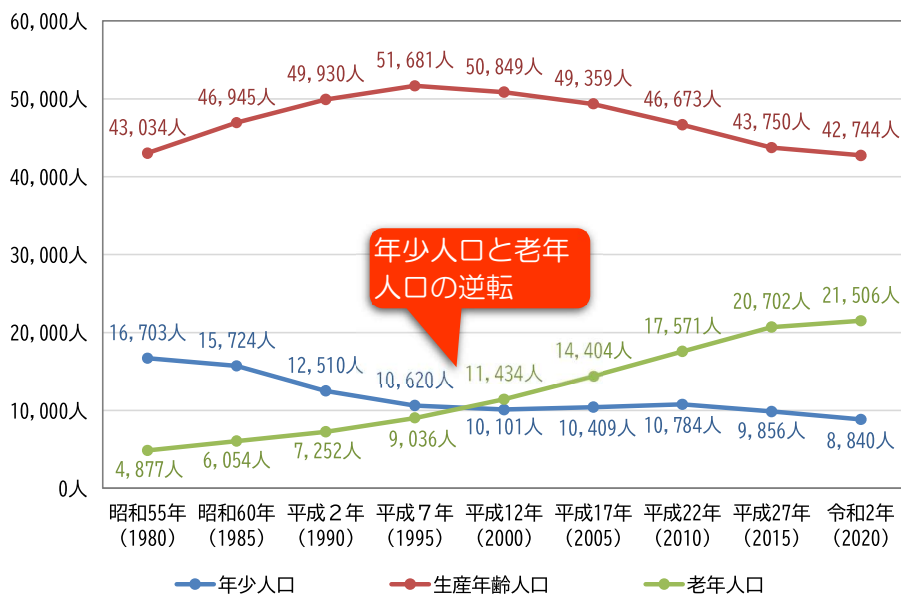
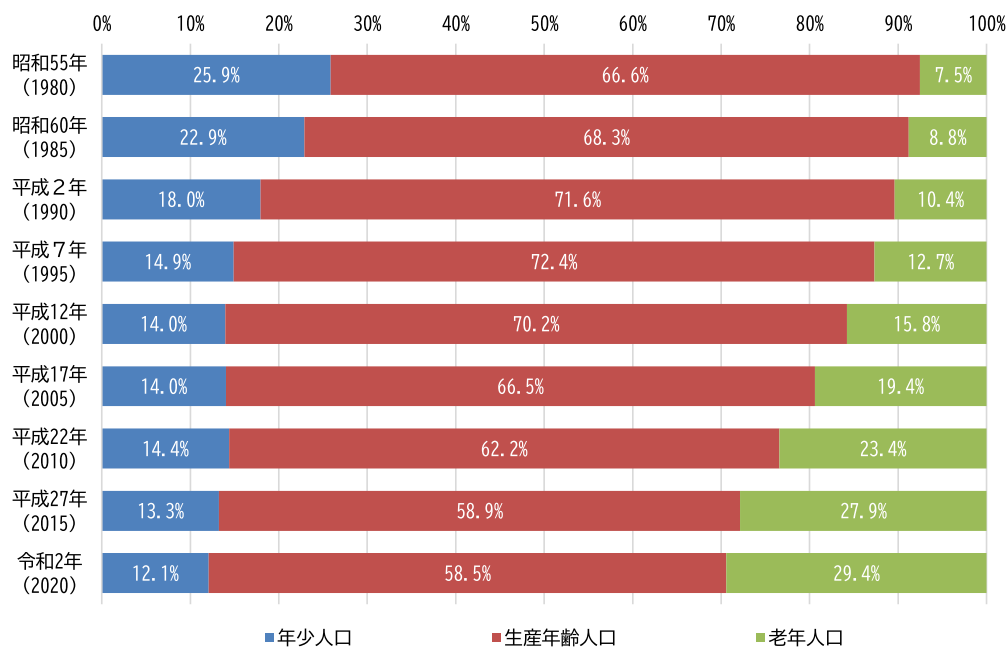


図5 年齢3区分別人口の推移 (犬山市)

資料：国勢調査

③人口の男女比

- ・2020年における犬山市の人口は、わずかに女性が多くなっています。
- ・2020年を年齢階級別に見てみると、0-4歳～55-59歳までは男性の方が多く、60-64歳より年齢が上の階級では女性の方が多くなっています。
- ・2020年における59歳以下を見ると、20-24歳及び25-29歳、30-34歳、45-49歳、50-54歳の階級において、特に男女の人口差が大きくなっています。
- ・2000年と2020年を比較すると2000年における25-29歳、50-54歳における人口の山が、そのまま45-49歳、70-74歳に移動しています。

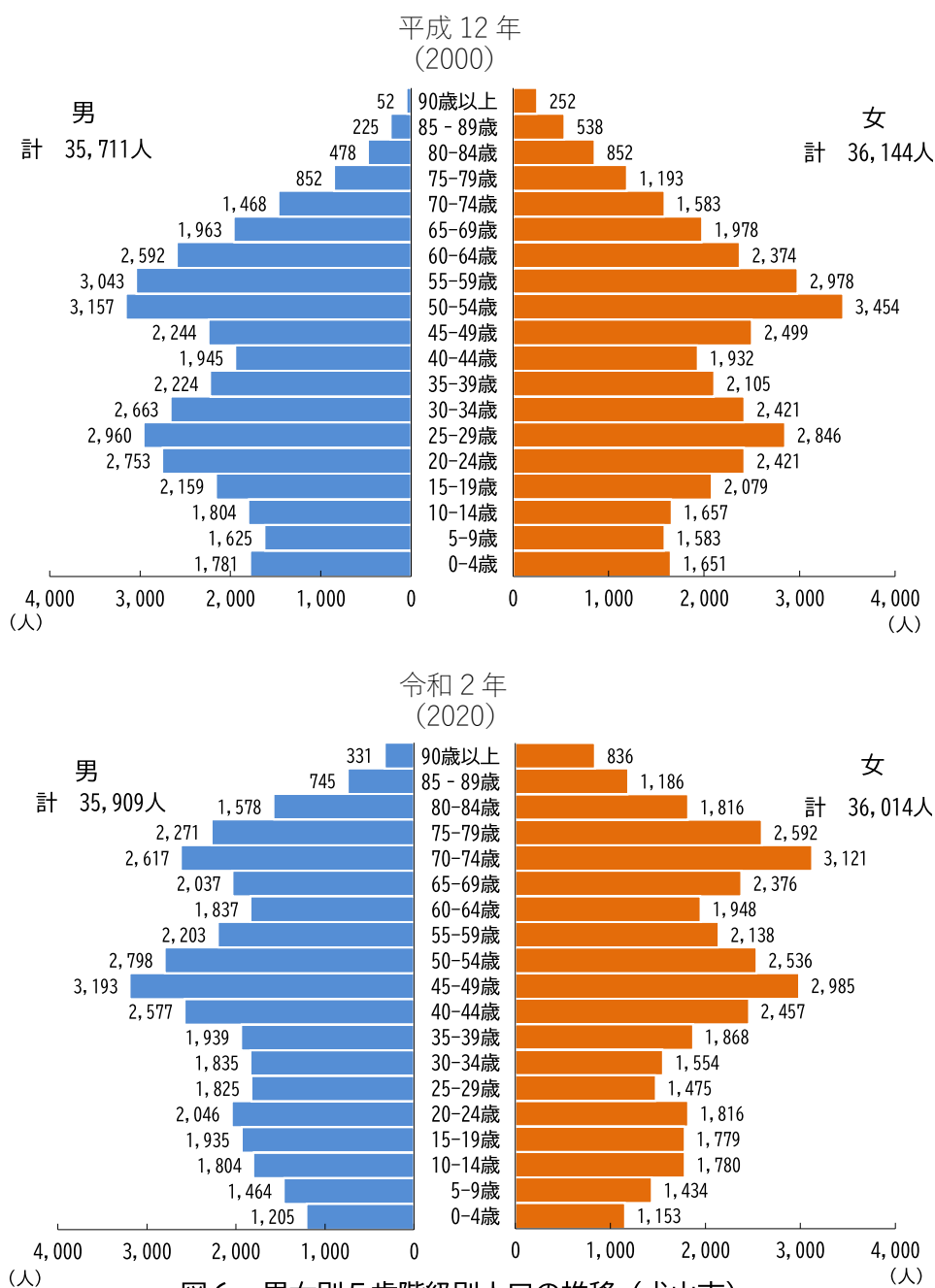


図6 男女別5歳階級別人口の推移 (犬山市)

資料：愛知県衛生年報

④初婚年齢

- ・初婚年齢の推移を見ると、男女ともに上昇傾向となっており、徐々に晩婚化が進んでいます。
- ・全国、愛知県、江南保健所管轄区域内（犬山市・江南市・岩倉市・丹羽郡）を比較しましたが、大きな違いはありませんでした。

※ 参照にした資料「愛知県衛生年報」では、犬山市の数値は掲載されていないため、江南保健所管轄区域内の数字を使用しています。

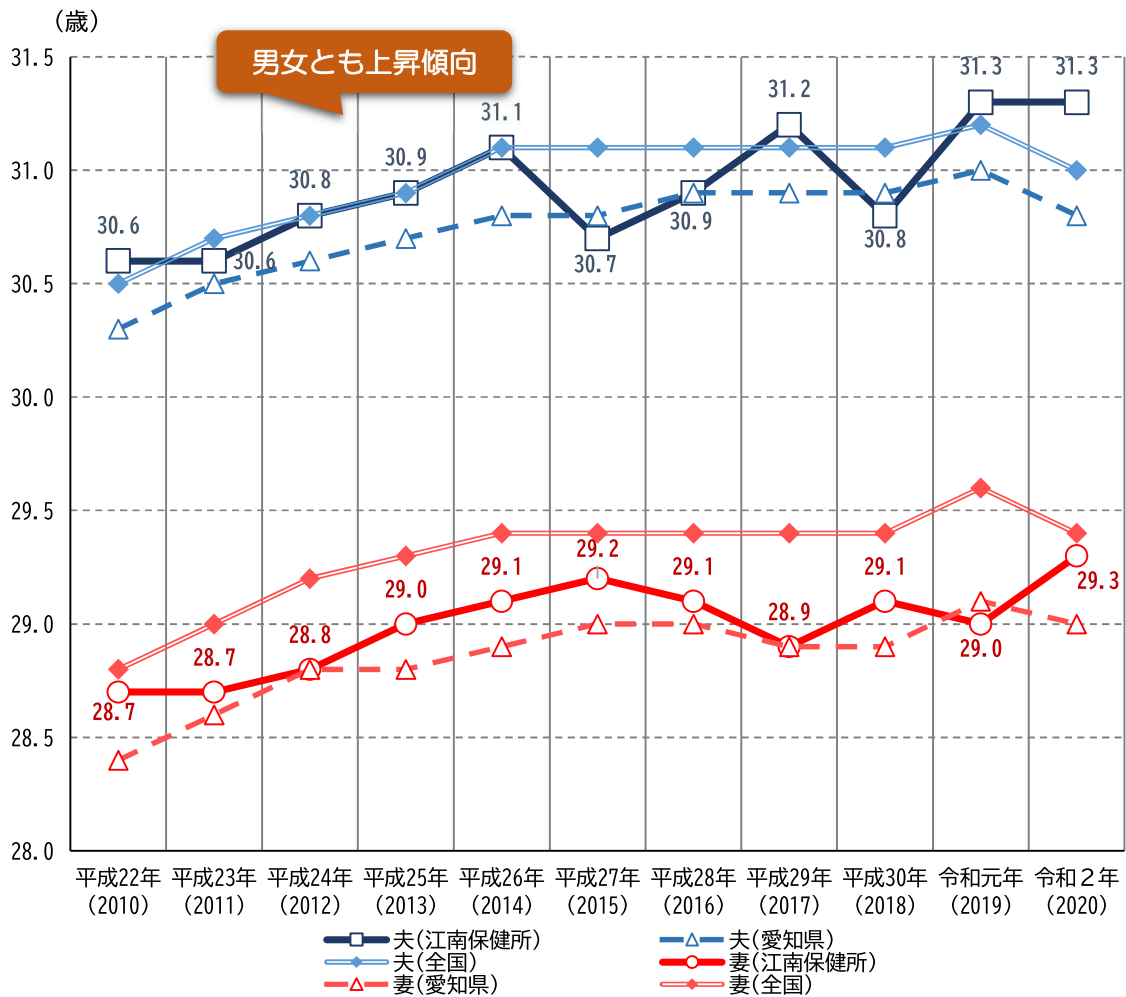


図7 平均初婚年齢推移

資料：愛知県衛生年報

⑤未婚率

- ・全国、愛知県、犬山市のいずれにおいても、女性よりも男性の方が生涯未婚率が高くなっています。
- ・犬山市の男性未婚率は全国及び愛知県と同程度となっています。一方で、犬山市の女性は愛知県と同程度となっていますが、全国よりも低くなっています。
- ・性別・年齢階級別では、全体に上昇傾向が続いていましたが、男性における20-24歳、35-39歳、40-44歳以下の階級では、近年、未婚率がわずかに低下しています。

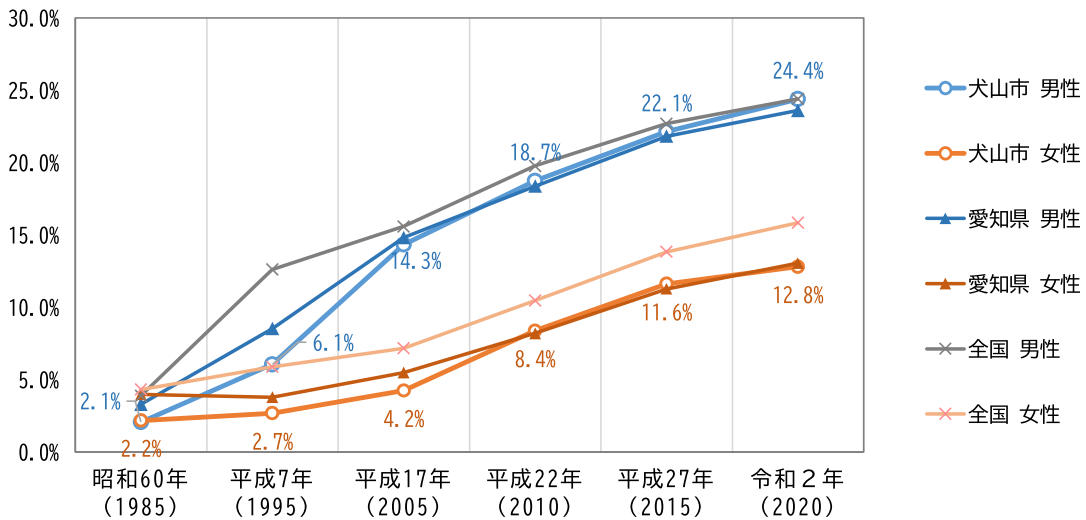


図8 生涯未婚率の推移

資料：国勢調査

※生涯未婚率 45～49歳と50～54歳の未婚率の平均により50歳時の未婚率を算出したもの

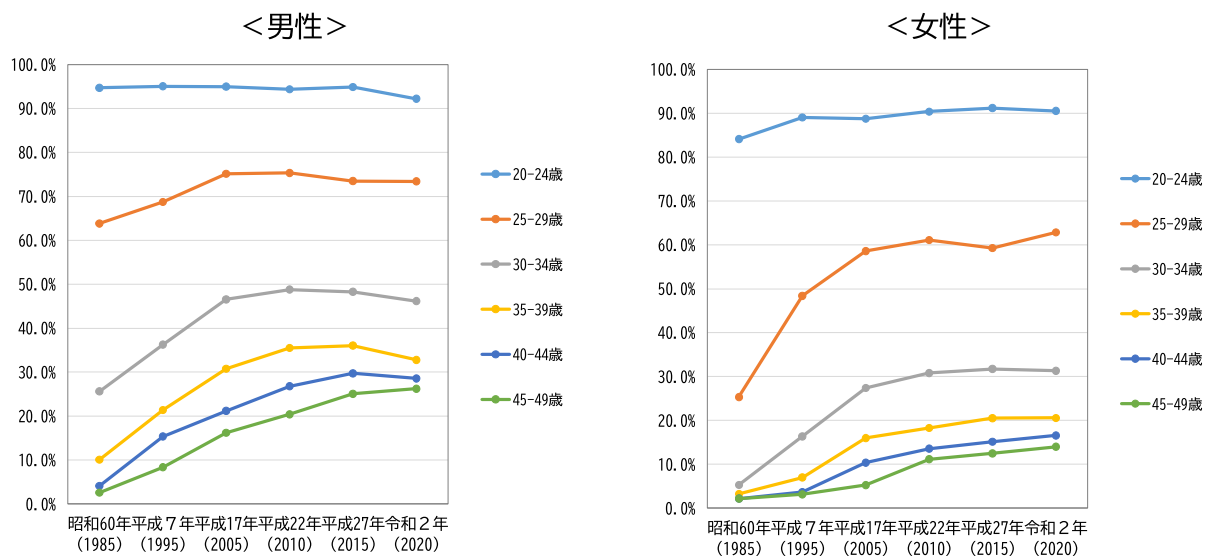


図9 性別・年齢階級別未婚率の推移 (犬山市)

資料：国勢調査

⑥自然増減

ア) 自然増減数の推移（犬山市）

- ・ 2008年から自然減に転じ、その後、自然減が続いています。
- ・ 出生数は増減を繰り返しながらも減少傾向となっており、2011年から2020年までの10年間で26.8%減少（594人→435人）しています。
- ・ 高齢者の増加を背景に、死亡数は増減を繰り返しながらも増加傾向となっており、2011年から2020年までの10年間で21.0%増加（651人→788人）しています。

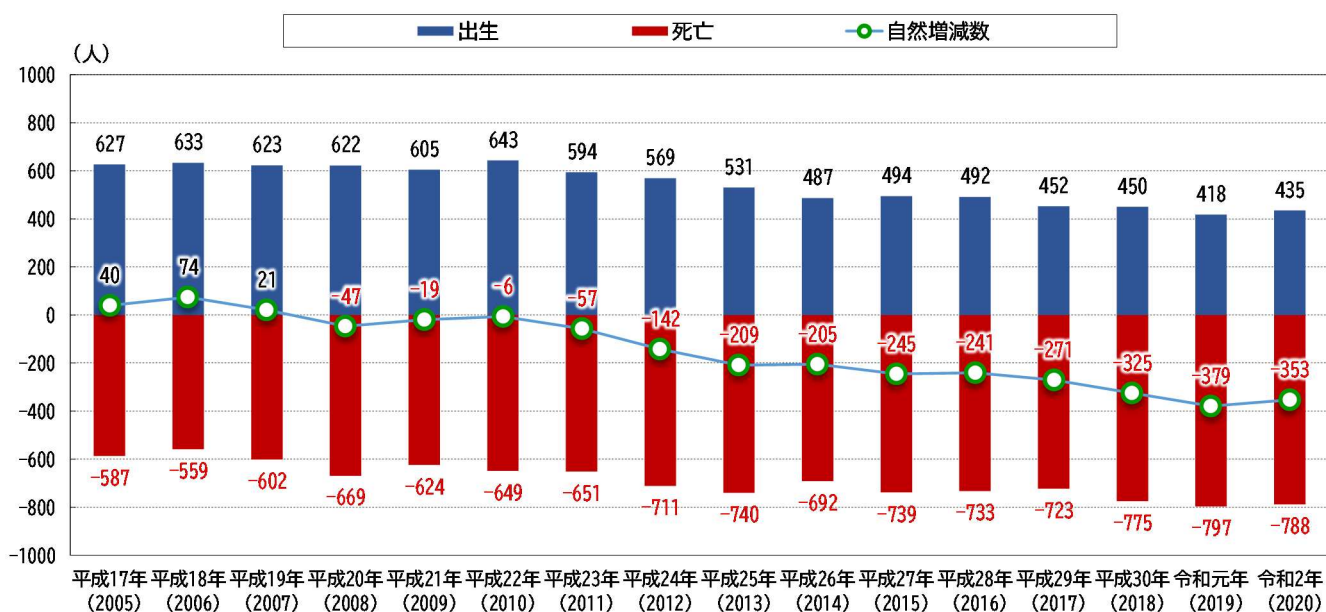


図10 自然動態（犬山市）

資料：住民基本台帳に基づく人口動態及び世帯数調査

イ) 合計特殊出生率

・犬山市の合計特殊出生率は、愛知県全体と比較して低く、全国と同程度となっていました。直近の2013～2017年では、全国や愛知県全体が上昇する中で、犬山市の合計特殊出生率は低下しています。

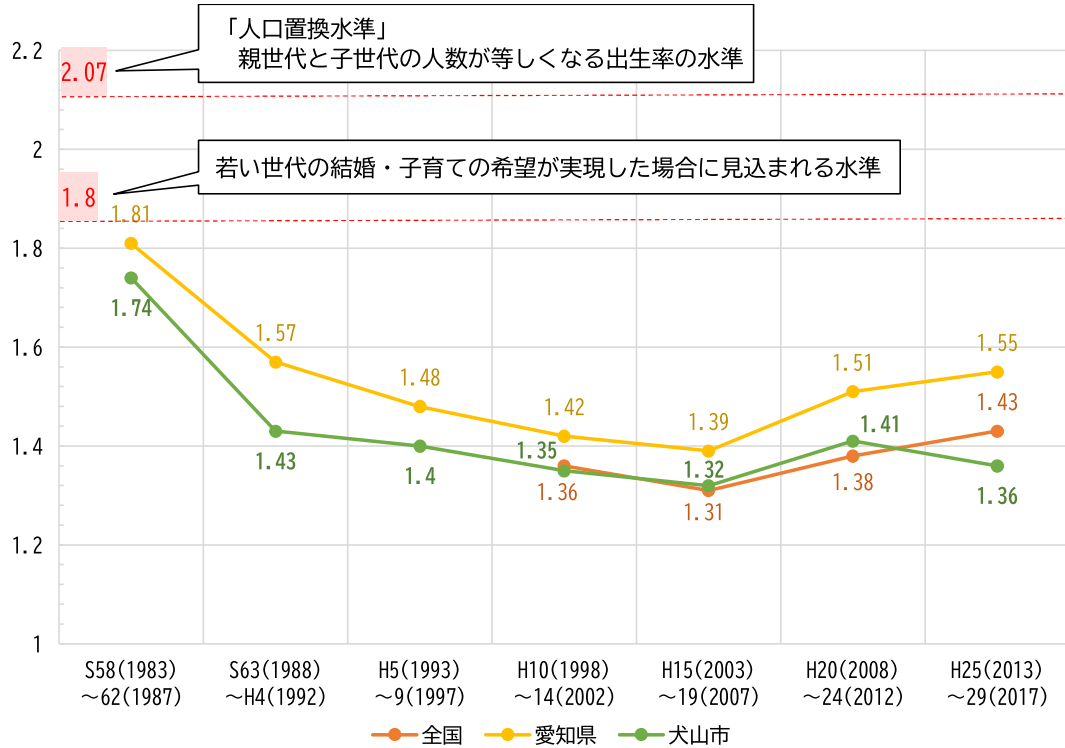


図 11 合計特殊出生率の推移

資料：人口動態保健所・市区町村別統計（人口動態統計特殊報告）

表 1 愛知県内自治体の合計特殊出生率の状況
平成 25 年（2013）～平成 29 年（2017）

上位都市		下位都市		
①	大府市	1.93	設楽町	1.44
②	東海市	1.86	名古屋市	1.41
③	日進市	1.85	蒲都市	1.40
④	大治町	1.85	新城市	1.39
⑤	北名古屋市	1.80	南知多町	1.36
⑥	大口町	1.80	犬山市	1.36
⑦	刈谷市	1.80	瀬戸市	1.34
⑧	みよし市	1.80	津島市	1.29
⑨	阿久比町	1.77	美浜町	1.27
⑩	幸田町	1.76	愛西市	1.25

資料：人口動態保健所・市区町村別統計（人口動態統計特殊報告）

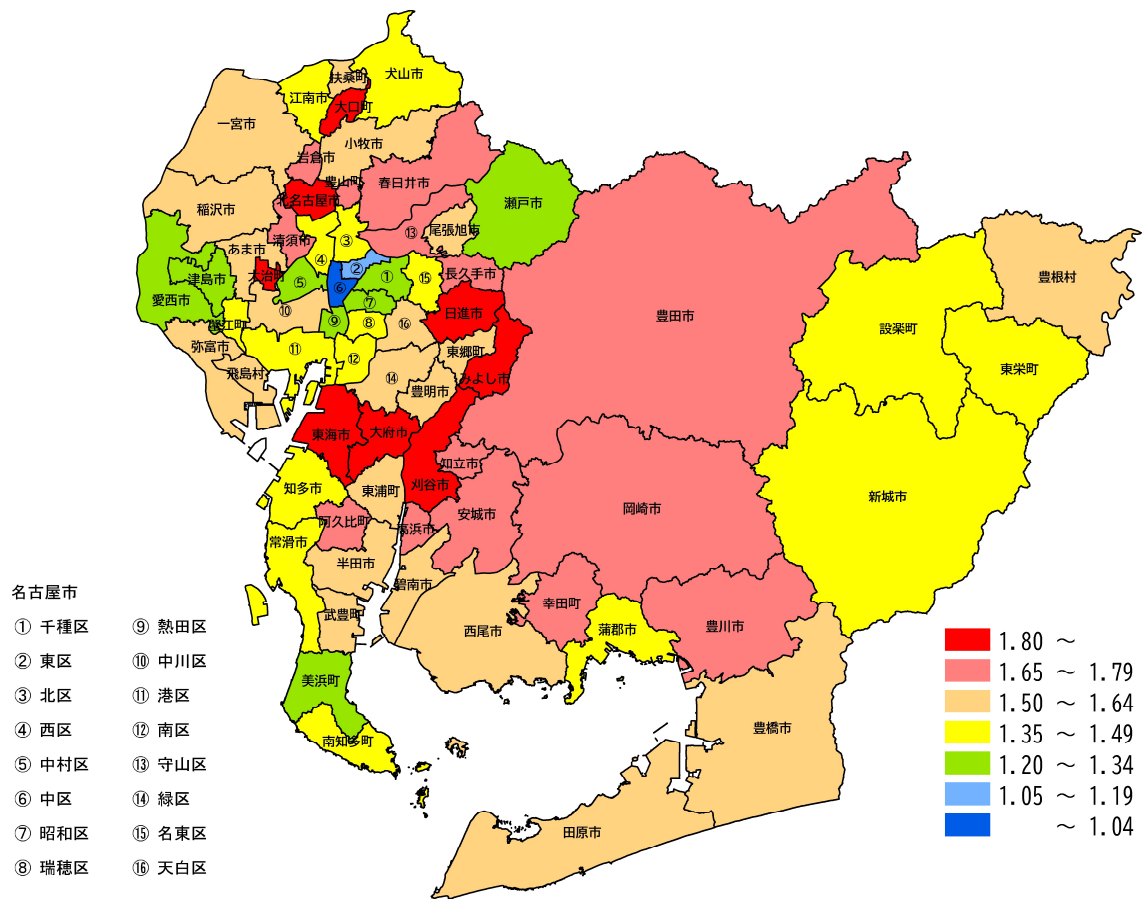


図 12 合計特殊出生率の分布（2013-2017 年）

資料：人口動態保健所・市区町村別統計（人口動態統計特殊報告）

ウ) 若年女性人口と出生数

- ・過去 15 年の若年女性と出生数の推移を見ると、若年女性人口は減少を続けており、2011 年から 2020 年までの 10 年間で 25.8%減少（8,565 人→6,359 人）しています。
- ・出生数は増加している年があるものの減少傾向となっており、2011 年から 2020 年までの 10 年間で 29.7%減少（580 人→408 人）しています。
- ・出生数全体における母の年齢構成比を見ると、2020 年における 25-29 歳の割合が 2017 年と比較して上昇した一方で、同時期における 30-34 歳の割合が低下しています。

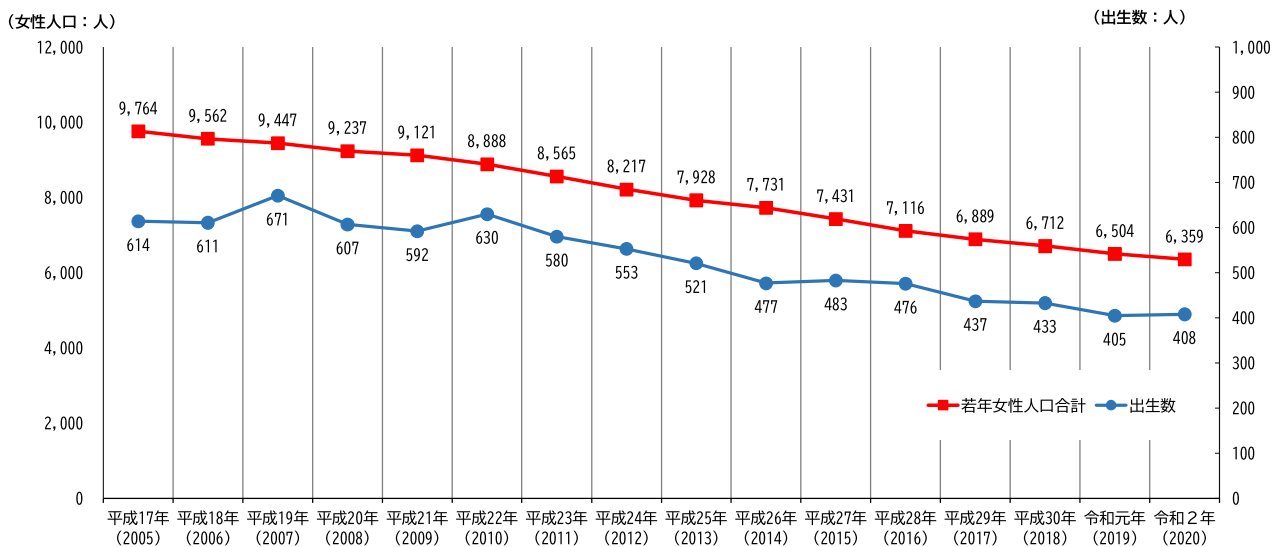


図 13 若年女性人口と出生数推移 (犬山市)

資料：住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数調査

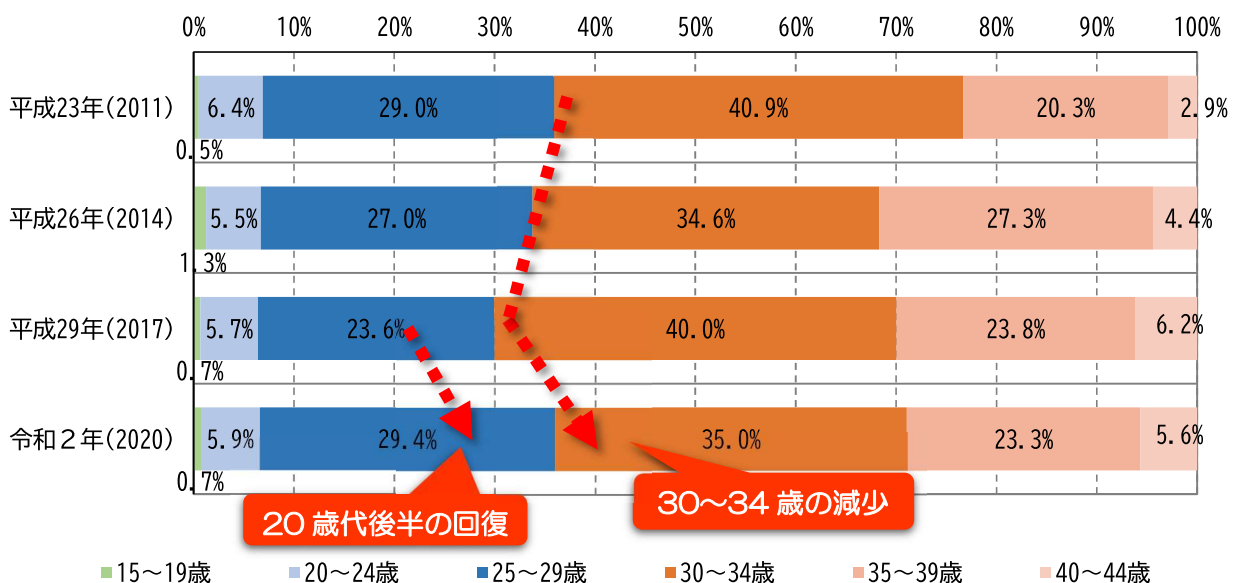


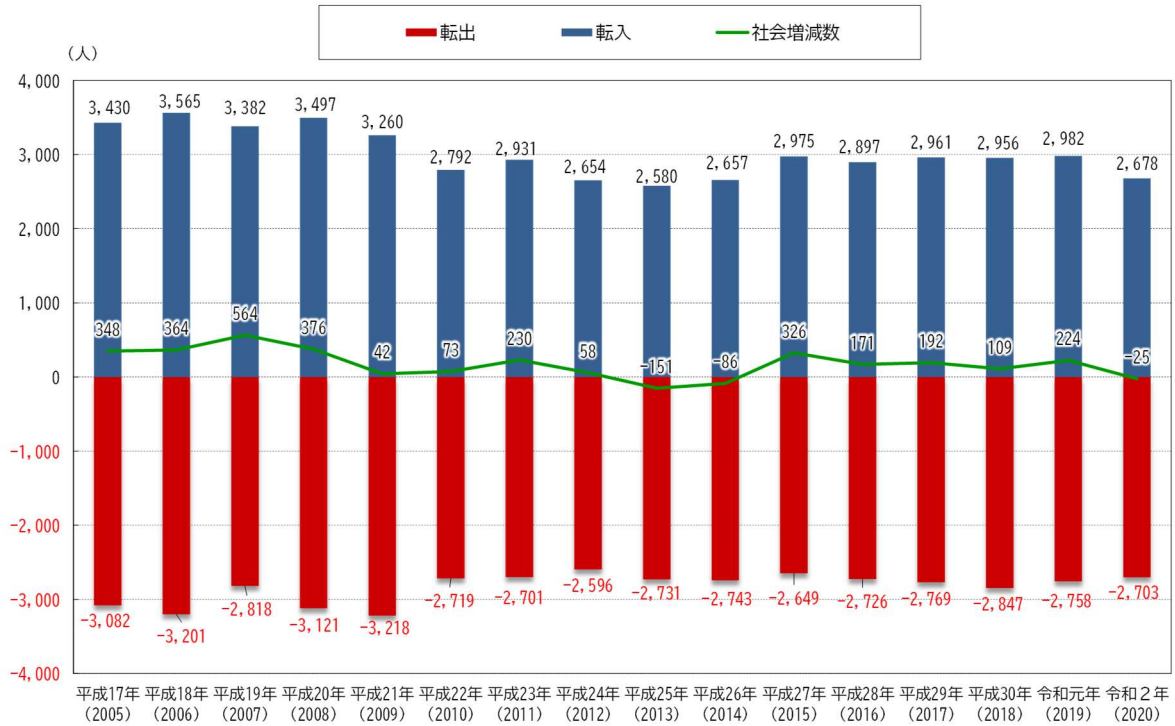
図 14 出生数全体の母の年齢構成比 (犬山市)

資料：愛知県人口動態統計

⑦社会増減

ア) 社会増減数の推移

- ・転入者数から転出者数を差し引いた社会増減数(その他増減除く)の推移を見ると、2013年、2014年は転出者が転入者を上回る社会減となりましたが、近年は増加が続き、2020年は再び減少に転じました。



※「その他増減」は含んでいない。

図 15 社会動向 (犬山市)

資料：住民基本台帳に基づく人口動態及び世帯数調査

イ) 転入元、転出先

●県内外別

- ・県内外別に見ると、愛知県内各市町村からの転入が全体の 58.1%となっています。
- ・県内外別に見ると、愛知県内各市町村への転出が全体の 56.7%となっています。
- ・日本人の転入出を市町村別に見ると、名古屋市及び近隣市町間での転入出が上位となっています。

●東京近郊（一都三県）との関係

- ・2020年における犬山市から東京近郊（東京都、埼玉県、千葉県、神奈川県）への転出は 251 人となっており、これは全体の 9.8%となっており、一定の割合を占めています。
- ・東京近郊への転出者を性別・10歳年齢階級別に見ると、女性よりも男性の転出数が多く、男女ともに 20~29歳が半数を占めています。

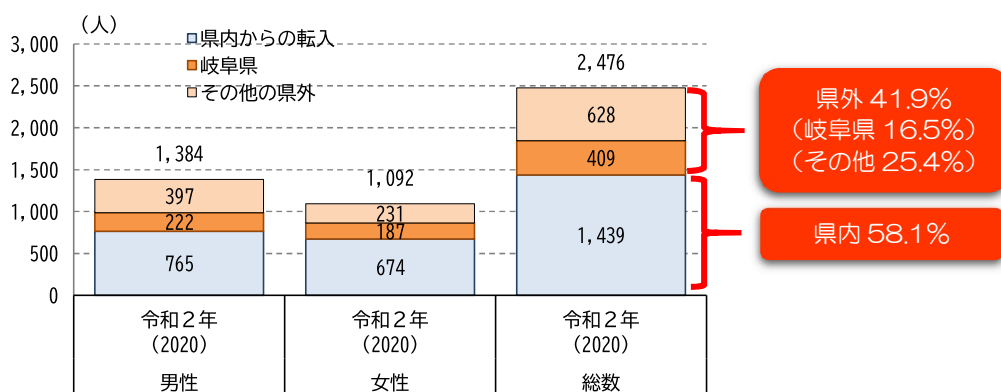


図 16 県内外別男女別転入者数（犬山市）

資料：住民基本台帳人口移動報告（日本人）

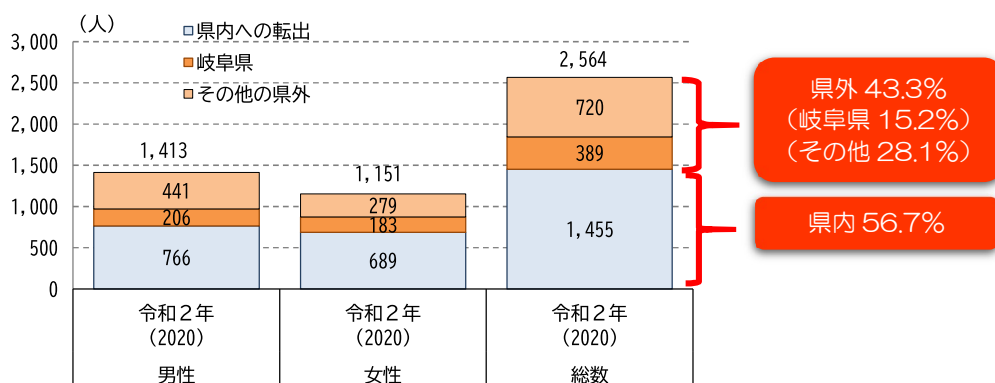
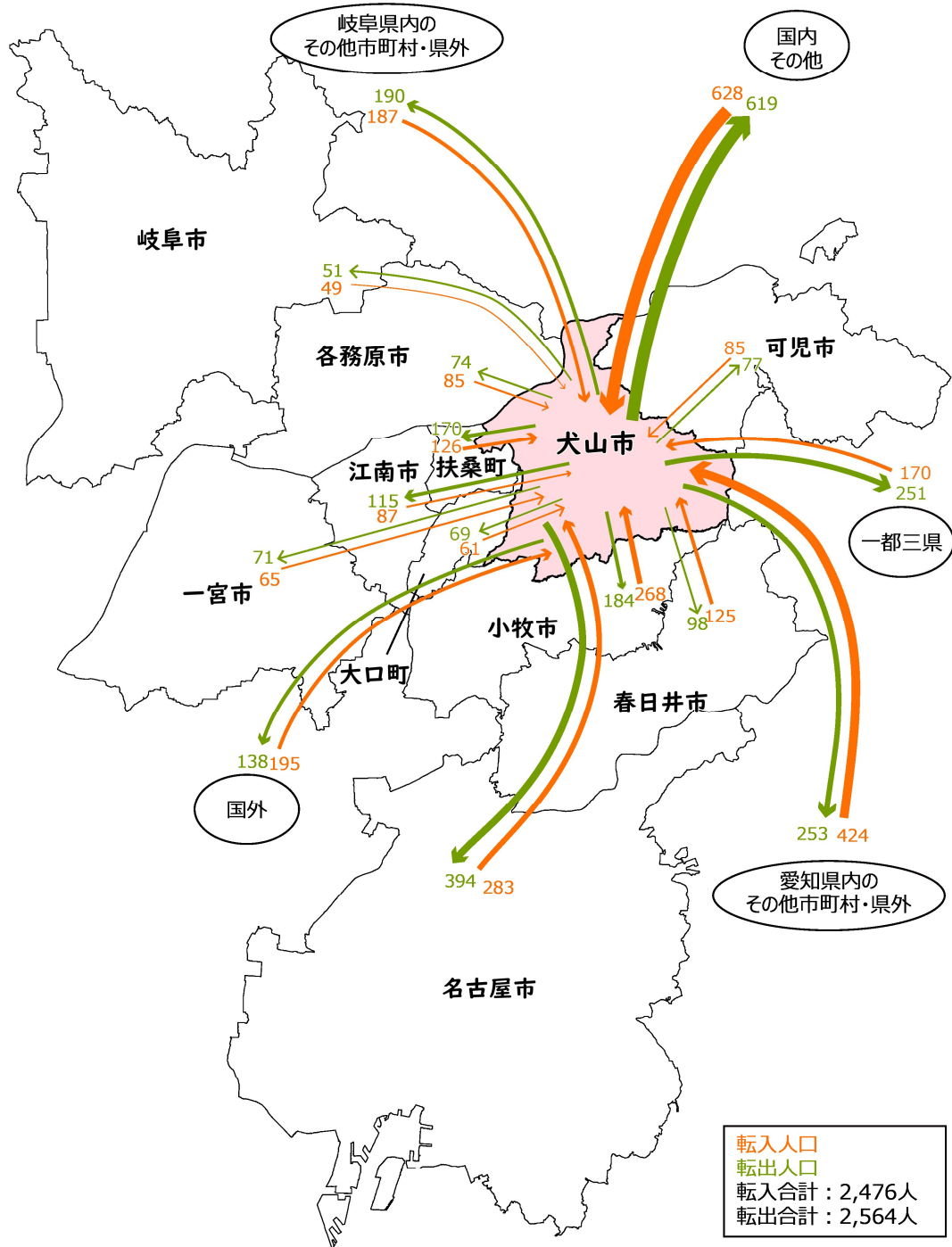
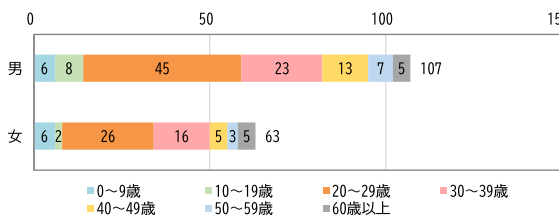


図 17 県内外別男女別転出者数（犬山市）

資料：住民基本台帳人口移動報告（日本人）



一都三県からの転入



一都三県への転出

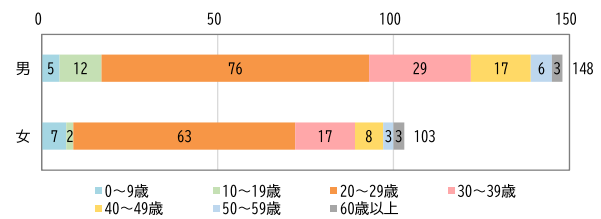


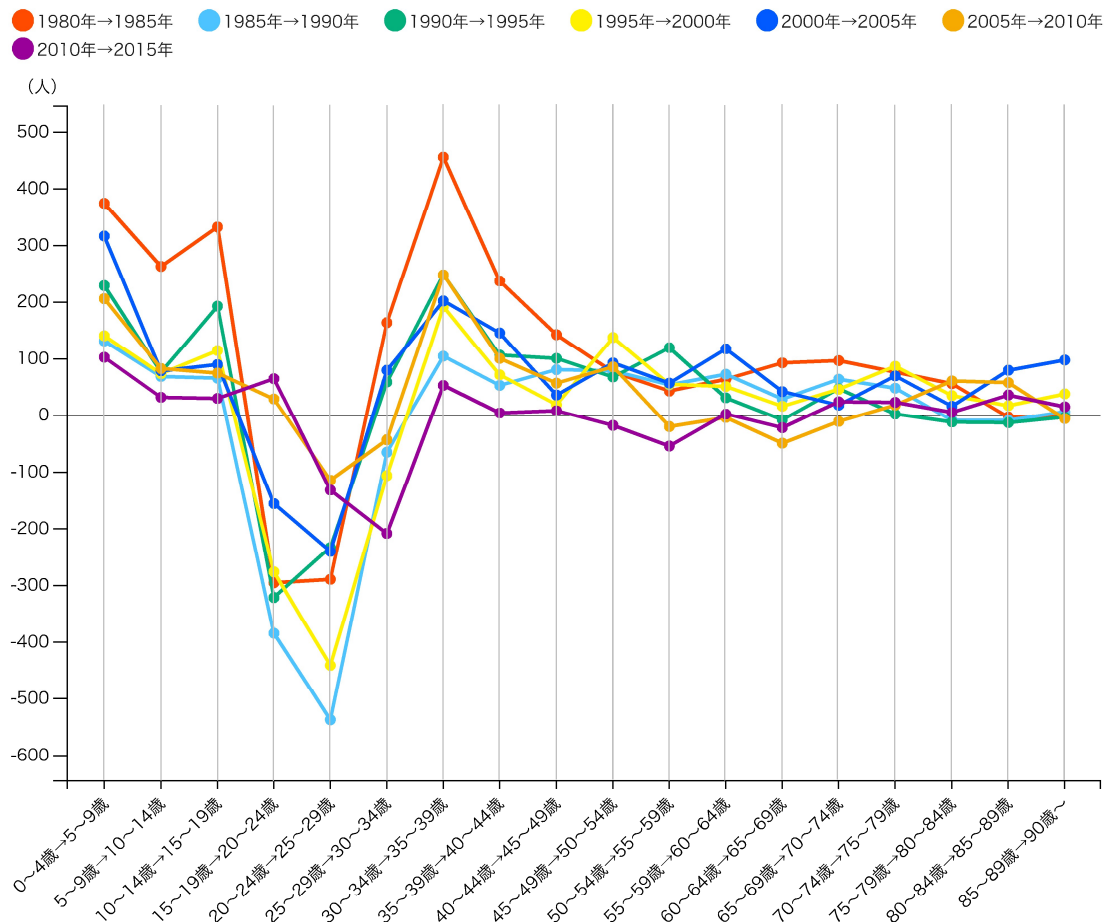
図 18 転入元・転出先の状況 (R2 (2020))

資料：住民基本台帳人口移動報告、「国外」は愛知県人口動向調査

⑧人口移動

ア) 5歳階級別人口移動

- ・国勢調査の結果から5歳階級別純移動を見ると、少し古いですが直近データの2010年→2015年においては、過去に比べて15歳～19歳→20～24歳及び20歳～24歳→25～29歳における減少が解消されている一方で、10歳～14歳→15～19歳以下の年齢階級及び25歳～29歳→30～34歳以上の階級における増加幅が減少しています。



【出典】
総務省「国勢調査」、厚生労働省「都道府県別生命表」に基づきまち・ひと・しごと創生本部作成

図 19 年齢階級別純移動数（犬山市）

資料：RESAS 地域経済分析システム

イ) 年齢別子どもの人口移動

- ・ 9歳以下の子どもの移動を見ると全体に増加傾向となっており、近年では2→3歳以下の階級が増加しています。

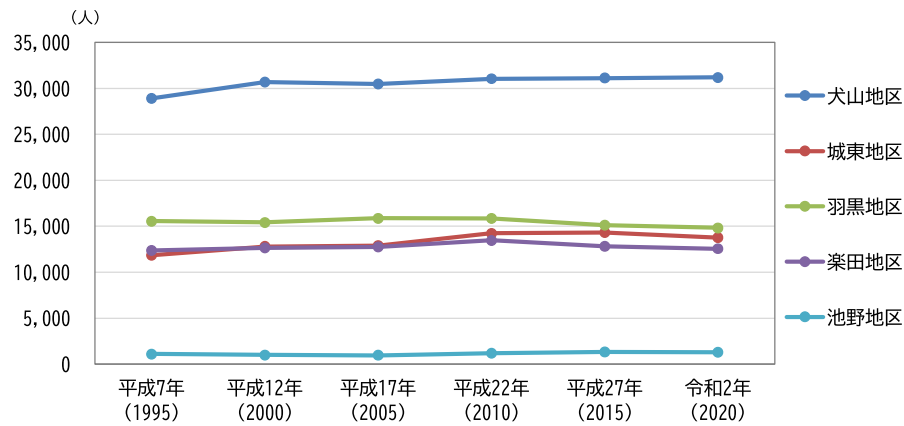
表2 1歳階級別平成25年(2013)から令和3年(2021)の各年の増減人数(犬山市)

	H25⇒H26	H26⇒H27	H27⇒H28	H28⇒H29	H29⇒H30	H30⇒R1	R1⇒R2	R2⇒R3	平均
0⇒1歳	1	23	47	26	13	33	25	34	25
1⇒2歳	-2	-3	-49	9	14	6	17	20	2
2⇒3歳	-4	6	0	13	-1	21	13	20	9
3⇒4歳	-1	1	-12	13	4	0	-1	11	2
4⇒5歳	1	-10	-38	4	4	7	-3	10	-3
5⇒6歳	-1	7	-43	8	1	5	8	8	-1
6⇒7歳	1	5	4	9	-1	6	3	-2	3
7⇒8歳	0	6	-53	12	6	0	10	3	-2
8⇒9歳	0	-3	11	6	1	-3	-3	2	1
9⇒10歳	-4	-1	11	4	2	5	3	-1	2
合計	-9	31	-122	104	43	80	72	105	38

資料：住民基本台帳

⑨地区別の動向

- ・市内を5地区（犬山、城東、羽黒、楽田、池野）に分けたとき、人口が最も多いのは犬山地区で、次に羽黒地区となっています。
- ・2005年以降、城東地区と池野地区の人口増加度が他地区に比べ高くなっていますが、これは宅地開発が影響していると考えられます。なお、2015年以降はどちらの地区も減少に転じています。



<平成7年(1995)を1.00とした場合の変化指数>

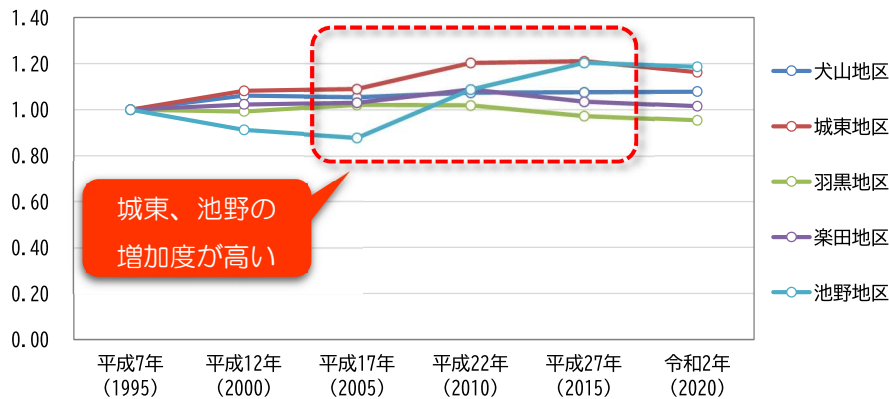


図20 地区別人口

資料：住民基本台帳

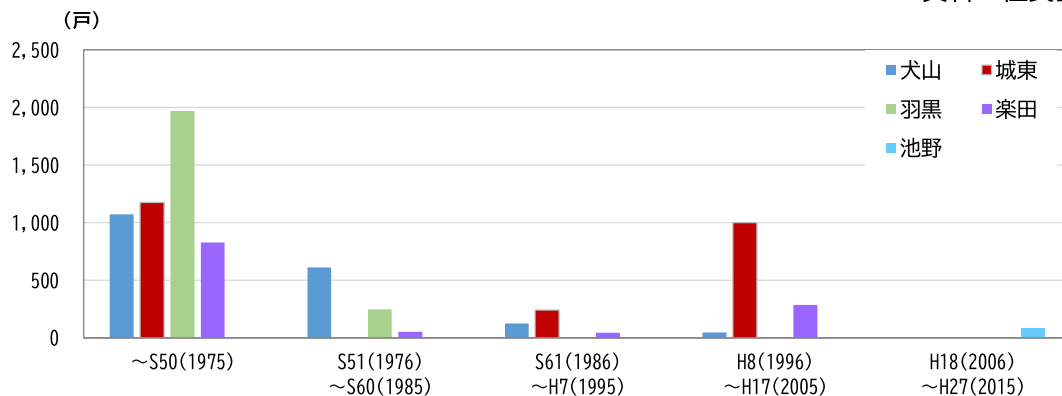


図21 年代別地区別開発供用戸数（犬山市）

資料：犬山市住宅地開発年表

2. 将来人口推計

(1) 基本推計（社人研の推計に準拠）

①基本推計の方法

人口推計にあたっては、「コーホート要因法」を用いて実施しました。

○使用した基礎データ

- ・社人研が公開している各種データを基本とし、一部のデータを最新の数値に置き換えて推計を実施しました。

	社人研推計	今回の基本推計
基礎人口	国勢調査（2015年）	国勢調査（2020年）
子ども女性比	日本の地域別将来推計人口	犬山市の合計特殊出生率（2013～2017年）を出生性比に換算
0～4歳性比	日本の地域別将来推計人口	
移動率	日本の地域別将来推計人口	
生残率	日本の地域別将来推計人口	

※ 「日本の地域別将来推計人口」の各種データは、2035年→2040年となっていることから、2040年→2045年以降の数字は2035年→2040年のものを使用しています。

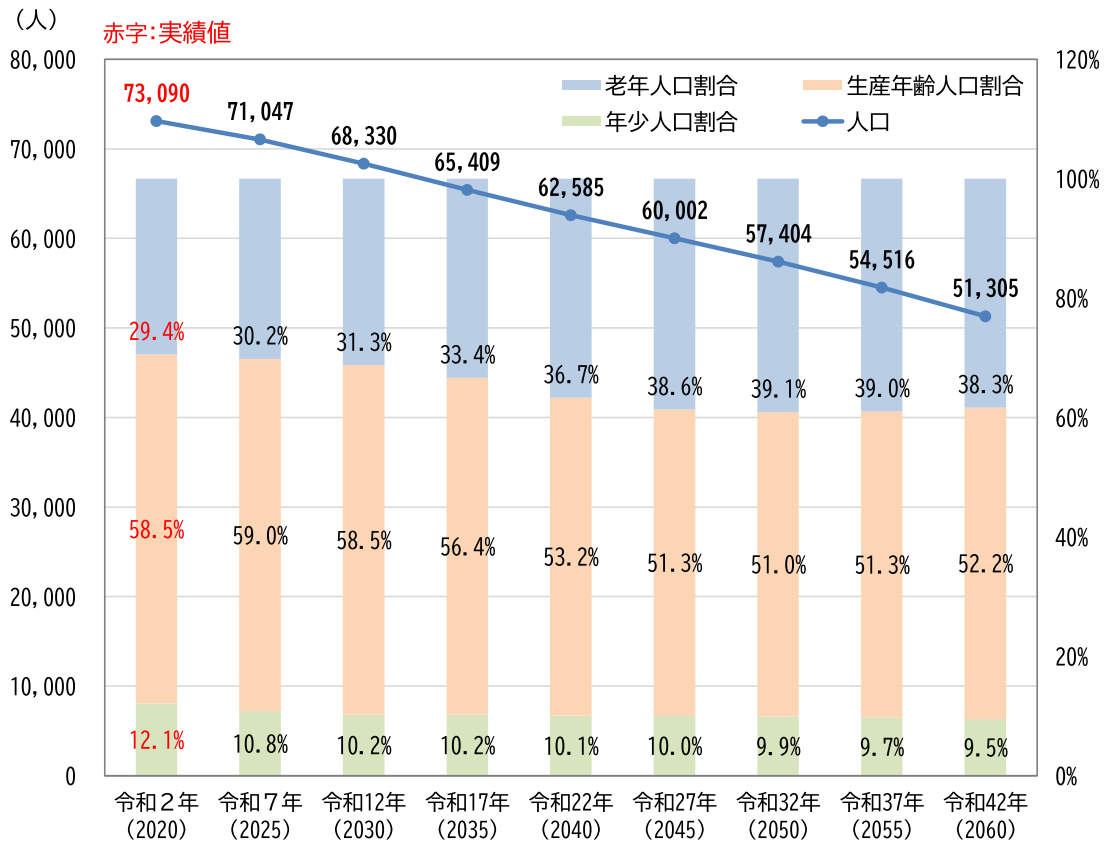
②推計結果

ア) 人口減少の継続

- ・今後も人口減少は続き、2020年の73,090人から2060年には51,305人になると推計されます。

イ) 少子高齢化のますますの進行

- ・年少人口の減少及び年少人口割合の低下に伴い、2020年の8,840人（12.1%）から2060年には4,866人（9.5%）になると推計されます。
- ・老年人口は、2045年の23,187人をピークに減少に転じますが、全体の人口減少により老年人口割合は2050年の39.1%がピークとなり、その後、低下に転じます。
- ・生産年齢人口は低下を続けますが、老年人口割合の低下に伴い、生産年齢人口割合は2060年に低下から上昇に転じます。



	令和2年(2020)	令和7年(2025)	令和12年(2030)	令和17年(2035)	令和22年(2040)	令和27年(2045)	令和32年(2050)	令和37年(2055)	令和42年(2060)	令和2年(2020)比
人口	73,090	71,047	68,330	65,409	62,585	60,002	57,404	54,516	51,305	70.2%
年少人口	12.1%	10.8%	10.2%	10.2%	10.1%	10.0%	9.9%	9.7%	9.5%	55.0%
生産年齢人口	58.5%	59.0%	58.5%	56.4%	53.2%	51.3%	51.0%	51.3%	52.2%	62.6%
老年人口	29.4%	30.2%	31.3%	33.4%	36.7%	38.6%	39.1%	39.0%	38.3%	91.4%

図 22 基本推計の結果

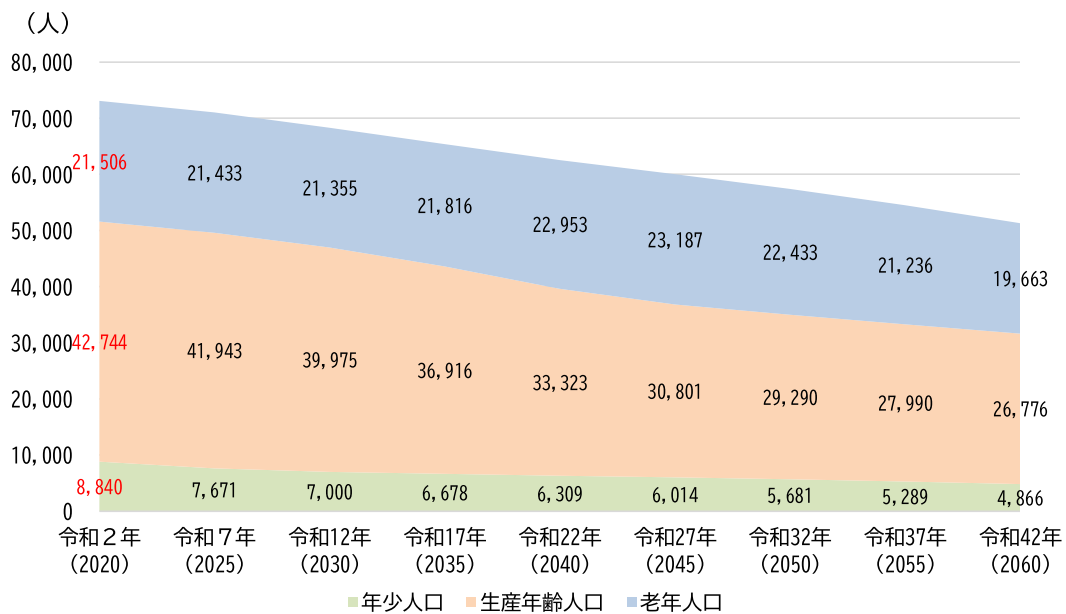


図 23 3区分別人口推移

③人口減少段階の分析

- ・「人口減少段階」は、一般的に、
 - 第1段階 老年人口の増加（総人口の減少）
 - 第2段階 老年人口の維持・微減（減少率 0%以上 10%未満）
 - 第3段階 老年人口の減少
 の3つの段階を経て進行するとされています。
- ・犬山市においては、2045年までは第1段階、2045年から第2段階へ移行し、今回の推計期間中（～2060年）は第2段階が継続すると推計されています。

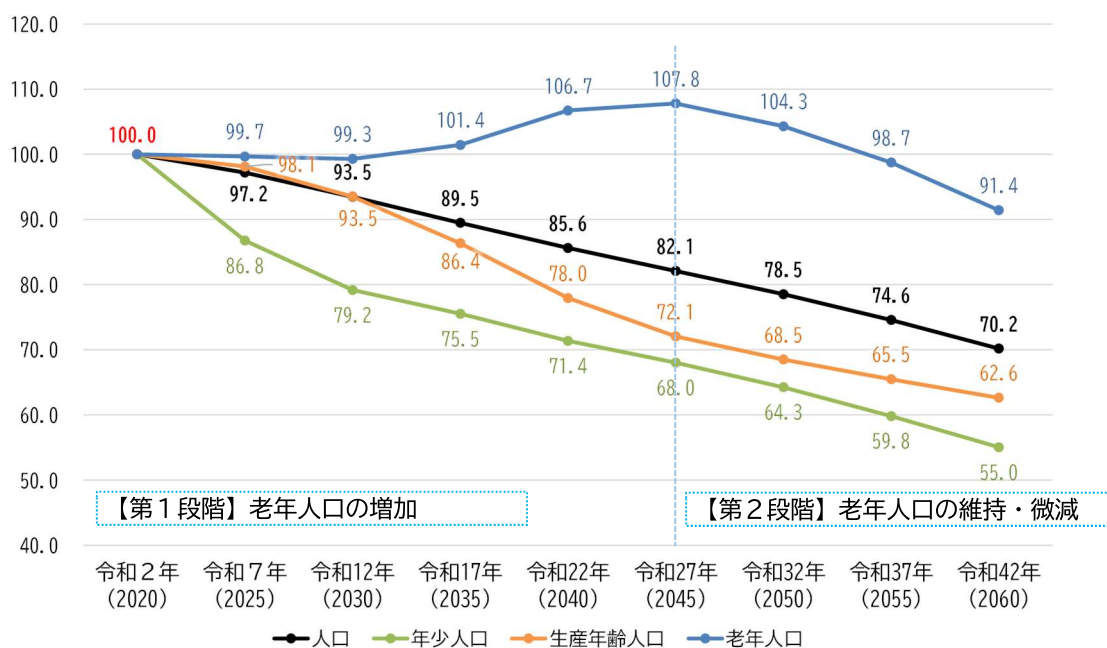


図 24 人口減少段階の分析

※令和2年（2020）における本市の人口及び年齢三階層別の人口をそれぞれ100とし、社人研に準拠した将来人口の推計値が、令和2年（2020）値と比較し、どの程度の割合となるのかをそれぞれ示したものの。

(2) 人口シミュレーション

①シミュレーションの目的及び条件

ここでは、基本推計をベースにシミュレーションを行い、自然増減、社会増減の将来人口に及ぼす影響度を分析します。

○シミュレーションの条件

番号	自然増減	社会増減
1	2060年までに合計特殊出生率が人口置換(2.07)まで上昇した場合	-
2	2060年までに合計特殊出生率が人口置換(2.07)まで上昇した場合	人口移動が均衡したとした場合(転入・転出が同数となり、移動がゼロとなった場合)
3	2060年までに合計特殊出生率が希望出生率(1.8)まで上昇した場合	2060年までに若年世代の転入が2015→2020年と比較して60人/年増加まで増加した場合※1
4	2040年までに合計特殊出生率が2013-2017年における愛知県全体と同程度(1.55)まで上昇し、その後、2060年までに1.65まで上昇した場合	2060年までに若年世代の転入が2015→2020年と比較して60人/年増加まで増加した場合※1 かつ 2015→2020年の移動率がマイナス(転出超過)となっている世帯の移動率が、2060年までに20%改善した場合※2

※1 ここでいう若年世代は30～39歳、及びその世代の子どもとして想定した0～9歳です。これら世代について、年間60人転入増(2020年の当該世代人口に対して男女別5歳階級別にそれぞれ約37人(単年で約7人)追加し)するものとし、純移動率を算出しました。

※2 市が子育て支援施策やシティプロモーション等を通して、人口の転出を抑制することを想定し、その効果として転出率を本来の8割になると設定したうえで、改善後の移動率を算出しました。

②シミュレーション結果

- ・出生率が2060年までに段階的に「2.07」まで向上するシミュレーション1では、2060年の人口は55,516人となっており、基本推計を約4,000人上回りますが、中期的な人口減少に歯止めをかけることができません。
- ・シミュレーション2では、シミュレーション1に加え、移動がない状態を想定していますが、シミュレーション1と同じような結果となりました。
- ・出生率が2060年までに段階的に「1.8」まで向上し、若年世代の転入を増加させるシミュレーション3では、2060年における人口は59,327人となり、基本推計を約8,000人上回るとともに、2030年における人口も70,000人を維持することができ、早くから人口減少に歯止めがかかります。
- ・出生率が2060年までに段階的に「1.65」まで向上し、若年世帯の転入が増加することに加え、転出超過となっている年齢階級の移動率が向上するシミュレーション4では、シミュレーション3と同じような結果となりました。
- ・こうしたことから、シミュレーション3または4を目安とし、出産や子育てに対する不安をやわらげ、出生率の向上を図るとともに、住むまちとしての犬山市の魅力を上させ、それを市内外へ発信することで、移動率を改善することが必要です。

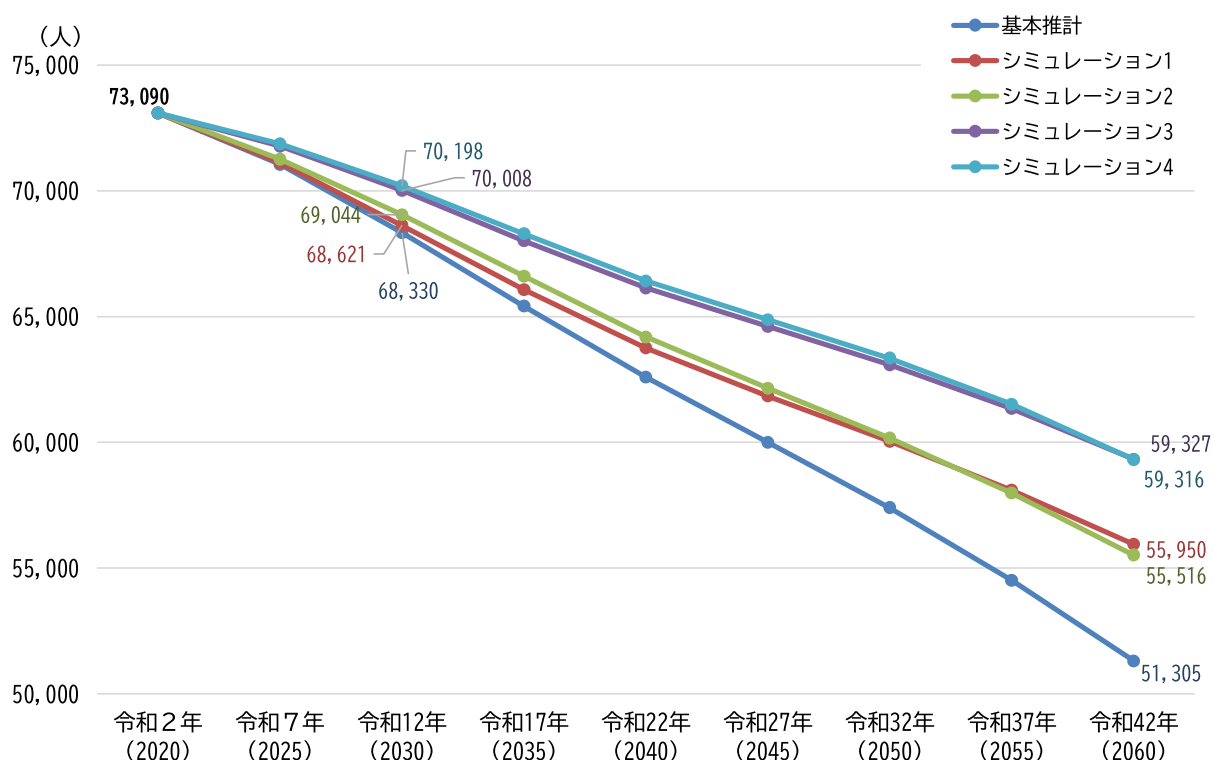


図 25 人口シミュレーションの結果

3. 人口の変化が地域の将来に与える影響

下記（１）～（５）は平成 26（2014）年度国土交通白書から抜粋。

（１）生活関連サービス(小売・飲食・娯楽・医療機関等)の縮小

- ・日常生活を送るために必要な各種サービスは、一定の人口規模のうえに成り立っています。人口減少によって、こうした生活関連サービスの立地に必要な人口規模を割り込む場合には、地域からサービス産業の撤退が進み、生活に必要な商品やサービスを入手することが困難になるなど、日々の生活が不便になるおそれがあります。
- ・サービス業等の第 3 次産業は地方圏の雇用の 6 割以上を占めており、こうしたサービス産業の撤退は地域の雇用機会の減少へとつながり、さらなる人口減少を招きかねません。

（２）税収減による行政サービス水準の低下

- ・人口減少とそれに伴う経済・産業活動の縮小によって、地方公共団体の税収入は減少する一方で、高齢化の進行から社会保障費の増加が見込まれており、地方財政はますます厳しさを増していくことが予想されます。
- ・こうした厳しい財政状況のなかで、既に建設された公共施設や道路・橋・上下水道といったインフラの老朽化問題への対応も必要とされます。

（３）地域公共交通の撤退・縮小

- ・これまで、地域公共交通は主として民間の事業者によって支えられてきましたが、人口減少による児童・生徒や生産年齢人口の減少が進めば、通勤通学者が減少し、民間事業者による採算ベースでの輸送サービスの提供が困難となり、不採算路線の撤退や運行回数の減少が予想されます。

（４）空き家、空き店舗、工場跡地、耕作放棄地等の増加

- ・人口が減少する一方で、総住宅数は増加しており、全国的に空き家数は一貫して増加傾向となっています。
- ・地域の経済・産業活動の縮小や後継者不足等によって空き店舗、工場跡地、耕作放棄地の増加も懸念され、空き家の増加とともに、地域の景観の悪化、治安の悪化、倒壊や火災発生といった防災上の問題等が発生し、地域の魅力低下につながるおそれがあります。

(5) 地域コミュニティの機能低下

- ・人口減少によって、町内会や自治会といった住民組織の担い手が不足し共助機能が低下するほか、地域住民によって構成される消防団の団員数の減少は、地域の防災力を低下させる懸念があります。
- ・若年層の減少は、地域の歴史や伝統文化の継承を困難にし、地域の祭りのような伝統行事が継続できなくなるおそれがあります。
- ・住民の地域活動が縮小することによって、住民同士の交流の機会が減少し、地域のにぎわいや地域への愛着が失われていくことが懸念されます。

4. 人口の将来展望

(1) 市民等の意識

①市民意識調査結果（18歳以上及び若者・子育て世代）

令和3年に18歳以上の犬山市民3,000人、若者・子育て世代（15-39歳）の犬山市民3,000人に市民意識調査を実施し、就職等への希望を聞き取りました。

ア) 就職について

- ・市民意識調査（若者・子育て世代）において、「学生」と回答した人に『就職、創業・起業、進学を希望する地域』を聞いたところ、「希望がある」が39.3%ある一方で、「どこでもよい」、「まだ決めていない」の合計は半数以上（59.3%）を占めています。「希望がある」と答えた学生の希望地域は、犬山市からの通学・通勤圏内が多くなっています。

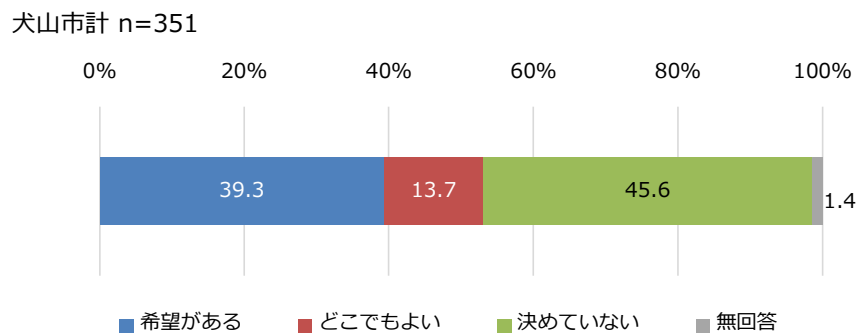


図 26 就職、創業・起業、進学を希望する地域（若者・子育て世代）

表 3 「希望がある」の希望地（若者・子育て世代）

第1希望	票数	第2希望	票数	第3希望	票数
名古屋市	44	名古屋市	16	名古屋市	9
犬山市	18	小牧市	10	犬山市	5
愛知県	16	犬山市	8	大阪府	5
東京都	10	岐阜県	6	江南市	5
岐阜県岐阜市	5	愛知県	4	愛知県	4
小牧市	4	東京都	4	扶桑町	3
春日井市	4	岐阜県岐阜市	3	東京都	3

イ) 結婚について

- ・市民意識調査（若者・子育て世代）において、未婚の市民に『今後、結婚したいと思うか』を聞いたところ、全体では「すぐにでも結婚したい」「婚約中である」「いずれは結婚したい」を合わせると 65.3%となっていますが、年齢5歳階級別に見ると、25-29 歳以降では「いずれは結婚したい」が低下し、「わからない」が上昇する傾向となっています。

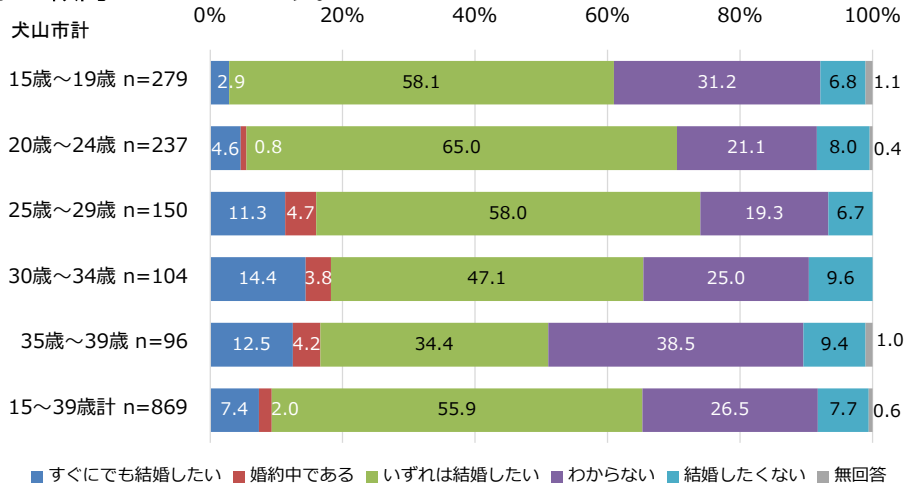


図 27 年齢×未婚×今後結婚したいか（若者・子育て世代）

ウ) 出産について

- ・市民意識調査（若者・子育て世代）において、現在子どもがいない市民に『将来子どもがほしいと思うか』を聞いたところ、「ほしい」73.3%となっています。また、『子どもがほしい場合の希望する人数』は「2人」が71.7%と最も多くなっています。

犬山市計 n=994

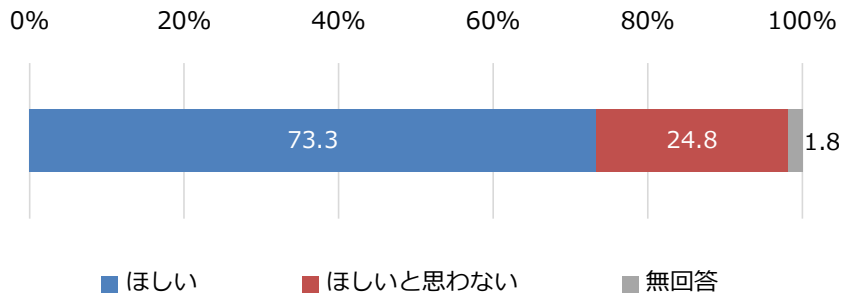


図 28 将来子どもがほしいと思うか（若者・子育て世代）

犬山市計 n=729

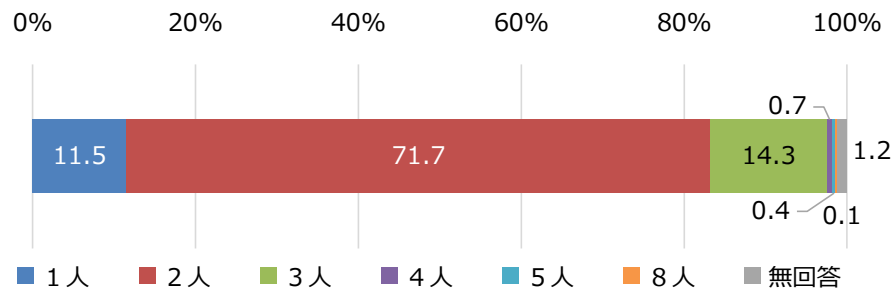


図 29 子どもがほしい場合、希望する人数（若者・子育て世代）

エ) 子育てについて

- ・15～39歳の市民に『安心して子どもを産むために必要な支援』を聞いたところ、「子育てのための（教育費含む）経済的な支援」が51.2%と最も多くなっています。

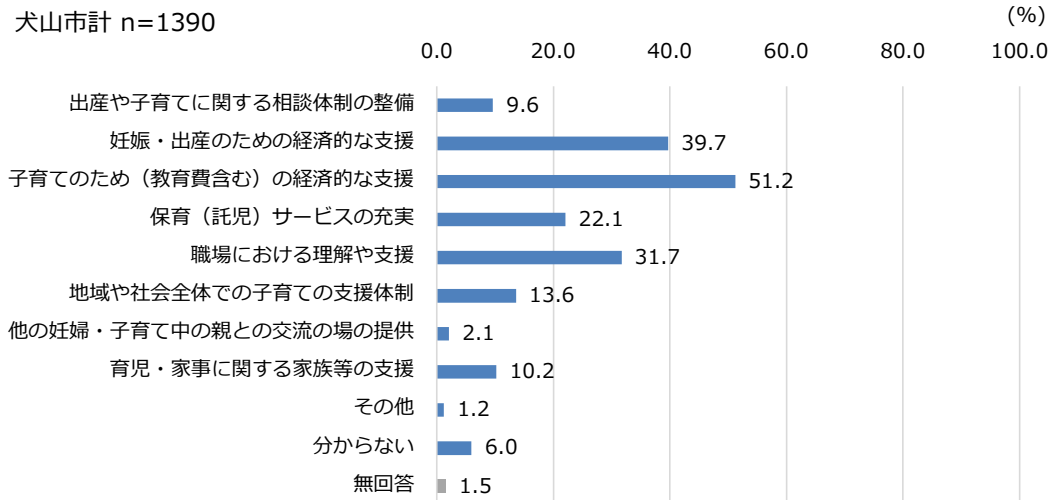


図 30 安心して子どもを産むために必要な支援（若者・子育て世代）

オ) 定住意向について

●学生

- ・市民意識調査（若者・子育て世代）において、学生と回答した人に『今後も犬山に住みたいか』を聞いたところ、「住み続けたい」が18.6%、「いつかは戻ってきたい」が22.4%となっている一方で、「住みたくはない」は10.8%でした。また、「今は分からない」が約半数（47.4%）となっています。

犬山市計 n=361

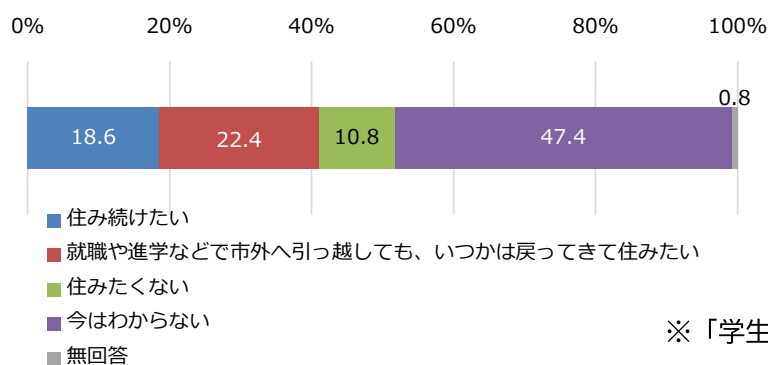


図 31 今後も犬山市に住みたいか（若者・子育て世代）

●全体（18歳以上）

・『これからも犬山市に住み続けたいと思いますか』を聞いたところ、「これからも住み続けたい」が71.1%、「住み続けたいが他の場所に移るかもしれない」が19.8%、「市内の他の場所に移りたい」が0.8%となっている一方で、「他の市町村に移りたい」は6.2%にとどまっています。

犬山市計 n=1782

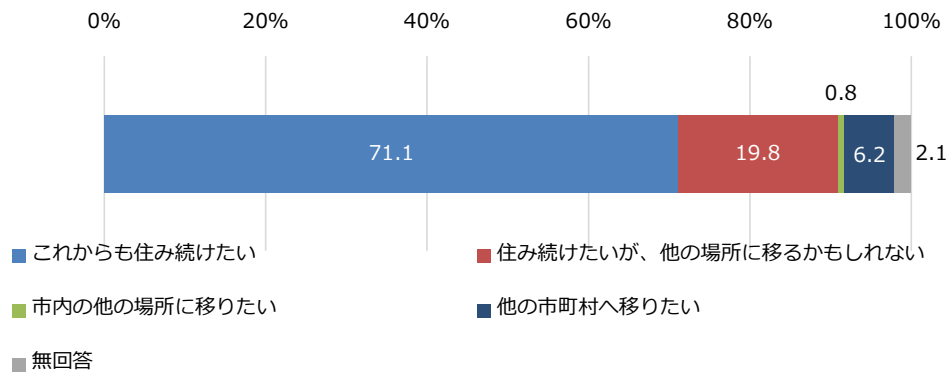


図 32 これからも犬山市に住み続けたいか（18歳以上）

②転入・転出者アンケートについて

犬山市では2019年8月から転入者・転出者を対象にアンケートを実施しています。ここでは2020年における転入・転出の理由についてまとめました。

・転入、転出ともに仕事の都合（就職、転職、転勤）、結婚、住宅の都合が多くなっています。

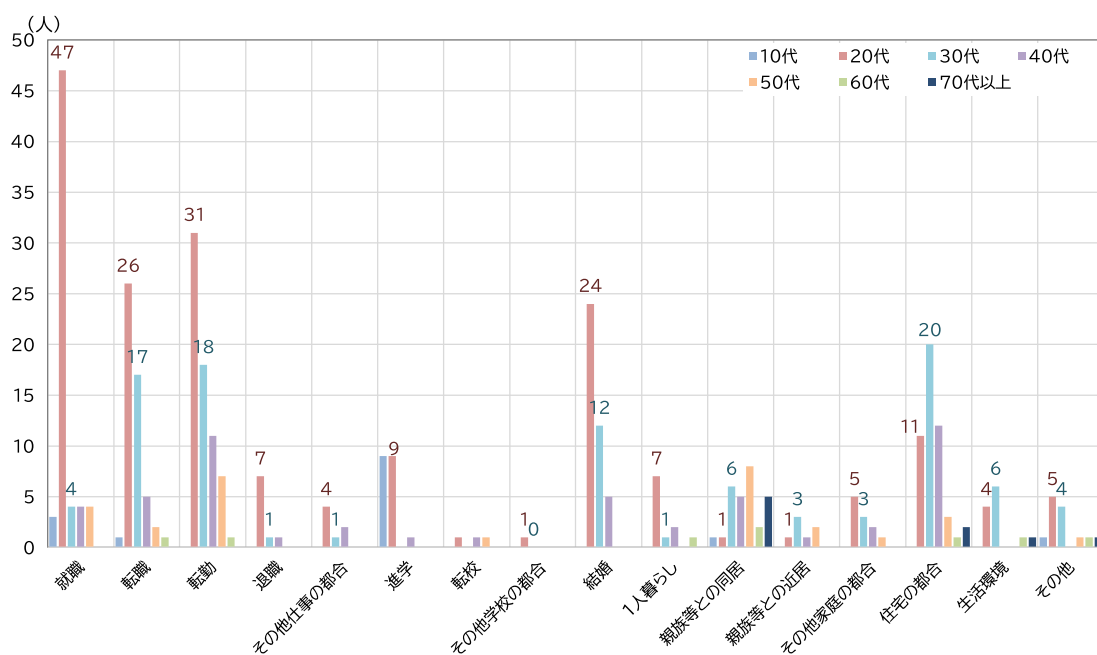


図 33 転入理由（犬山市）

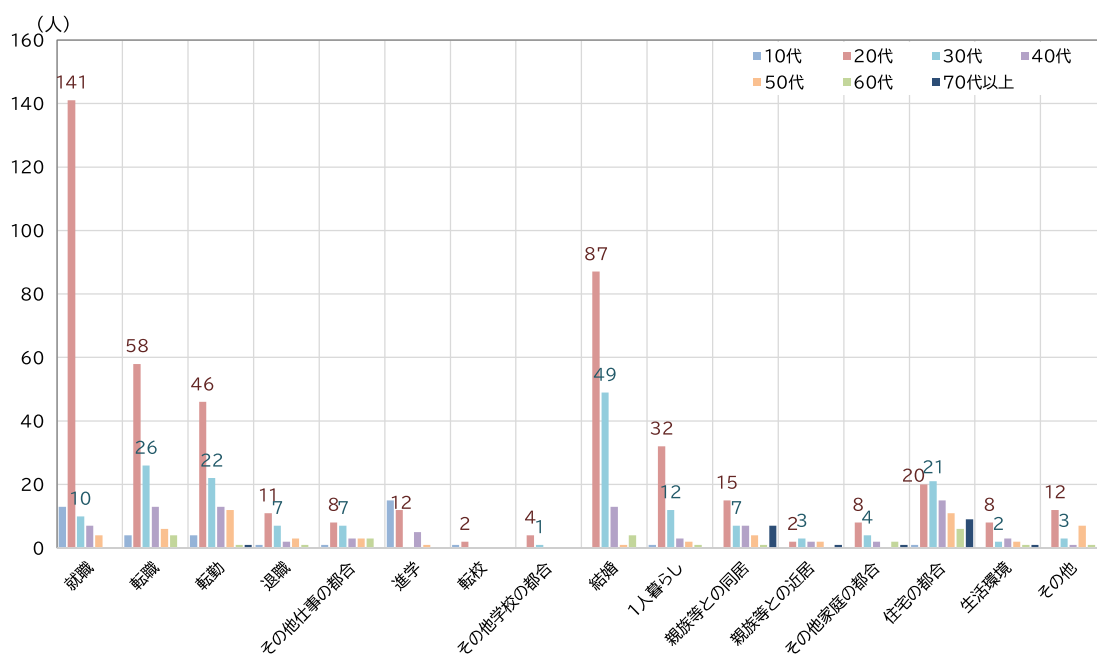


図 34 転出理由（犬山市）

③市内企業ヒアリング（居住地について）

令和3年に市内の製造業の事業所10社を対象に、従業員の状況等についてのヒアリングを実施しました。

ア) 採用について

- ・大学卒業者については、民間の就職・採用情報サイトを利用して、全国から採用しているとのこと。
- ・高校卒業者については、近隣の工業高校や市内高校等に依頼しているほか、ハローワークを利用しているとのこと。
- ・大学卒業者、高校卒業者ともに、採用には苦労しているという声が多くありました。

イ) 従業員の居住地について

●全体

- ・事業者としては、従業員が市内（事業所の近く）に居住することを望んでいますが、犬山市内居住者の割合はあまり高くなく、低いところでは20%~25%の事業所もありました。
- ・居住地としては、犬山市以外では、近隣の小牧市、大口町、扶桑町、江南市、各務原市、可児市等に住んでいるという事業所が多くありました。

●持ち家

- ・犬山市や犬山市近隣の市町での購入が中心となっています。
- ・「犬山市には物件がない（少ない）」という意見もありました。

●社宅等

- ・社員寮や社宅を用意している事業所もあれば、借り上げで対応している事業所もありました。
- ・社員寮や社宅は犬山市内がほとんどですが、借り上げ物件については、犬山市内に物件がないことから、犬山市外の物件も利用しているとのことでした。

(2) 目指すべき将来の方向

①自然増減について

- ・「2 (2) ②シミュレーション結果」のとおり、段階的に合計特殊出生率を向上させても、短期的には犬山市の人口に与える効果は軽微なものとなっています。
- ・現在 (2013～2017 年) の犬山市の合計特殊出生率 (1.36) は、全国 (1.43) 及び愛知県全体 (1.55) と比べても低くなっていること、加えて、出生率向上にかかる施策の効果が表れるまでに相当の期間を要するであろうこと予想されます。
- ・2040 年までの目標を現在の愛知県全体と同程度 (1.55)、その後、2060 年までに「1.75」まで上昇させることを目標とします。
- ・15 歳～39 歳の子どもがいない人では「子どもがほしい」と回答した人も多く、出産や子育てに関する希望を叶えるための各種施策を展開することが、目標達成につながると考えます。

②社会増減について

- ・市民意識調査 (18 歳以上) では、定住意向は非常に高くなっています。
- ・学生の定住意向は、今後、進学、就職等を控えているためか、定住意向は4割程度となっており、「今はわからない」が約5割となっています。
- ・「今はわからない」と回答した学生に、犬山市に住み続けたいと思ってもらえるようにする必要があります。
- ・犬山市の転入・転出の理由は、仕事 (就職、転職、転勤) や結婚、住宅の都合が多くなっています。
- ・こうした人生のターニングポイントを迎える人を対象に犬山市の魅力を発信することが効果的だと考えます。特に住宅購入を考えている人は、犬山市への定住が期待できます。

(3) 人口の将来展望

①将来展望の期間等

- ・将来展望の期間は、最新の国勢調査結果を把握している 2020 年を起点とし、40 年後の 2060 年までとしつつ、大きな施策については 2040 年を見据えた展開を図ることとします。

②人口の将来を展望するにあたっての推計方法

ア) 自然移動

- ・3(2)①に記載した目指すべき方向に沿って、合計特殊出生率を下記のとおり上昇させるものとします。

表4 合計特殊出生率の設定

	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年	2050年	2055年	2060年
合計特殊出生率	1.40	1.45	1.50	1.55	1.60	1.65	1.70	1.75

イ) 社会移動

- ・3(2)②に記載した目指すべき方向に沿って、移動率を下記のとおり上昇させるものとします。

●転入人口の増加

表5 転入人口についての設定

	年間転入若年世代の増加(※)
2020～2030年	25人
2030～2040年	100人
2040年以降	90人

※ここでいう若年世代は 30～39 歳、及びその世代の子どもとして想定した 0～9 歳です。これら世代について、2015→2020 年における各年に上表に人数が転入増するものとし、純移動率を算出しました。

●転出の抑制

表6 転出抑制についての設定

	転出抑制の考え方
2020～2030年	転出超過の性別世代の移動率を約 15%改善
2030～2040年	転出超過の性別世代の移動率を約 35%改善
2040年以降	転出超過の性別世代の移動率を約 20%改善

③将来展望（目標人口）結果

ア) 総人口

- ・2040年における人口は約66,500人、2060年は約60,000人となります。

イ) 年少人口

- ・年少人口割合が全体的に上昇し、2060年では基本推計の9.5%から13.0%になります。
- ・2045年以降においては2020年よりも年少人口割合が上昇します。

ウ) 生産年齢人口

- ・生産年齢人口割合が全体的に増加し、2060年では基本推計の52.2%から53.7%になります。

エ) 老年人口

- ・老年人口割合が全体的に低下し、2060年では基本推計の38.3%から33.3%になります。
- ・高齢化率のピークが2050年から2045年に前倒しされます。

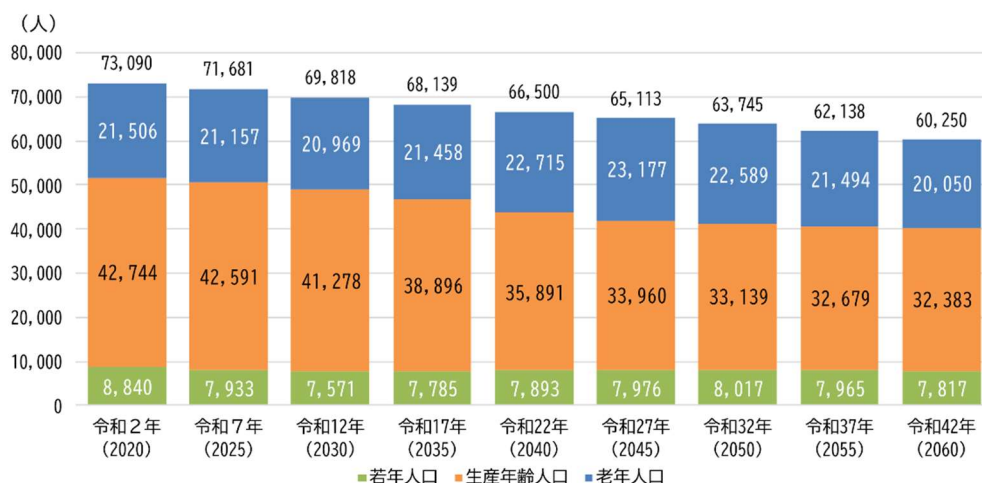


図35 人口推計結果（年齢3区分別人口）

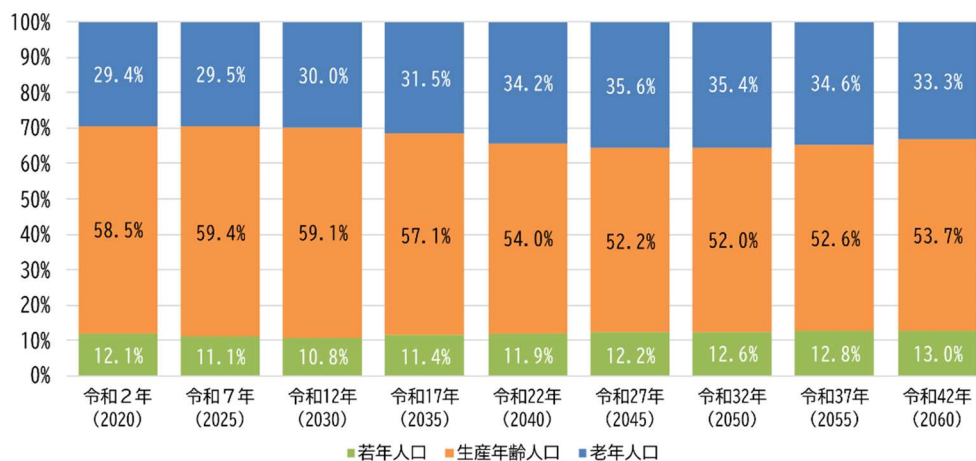


図36 人口推計結果（年齢3区分別人口比率）